

とちぎ発

# 元気農業

ふるさととちぎ21活性化塾だより



平成25年

56号



## パネルディスカッション 「栃木県の特徴を活かす6次産業化のヒント」

平成25年7月25日、宇都宮市の栃木県産業振興センター多目的研修室で農業の6次産業化シンポジウムを開催しました。

当日は、㈱四万十ドラマ 畦地履正代表の講演及び6次産業化の認定者3組によるパネルディスカッションを行い取組のきっかけ、苦労した点、今後の抱負などの討論をしました。

当日は、6次産業化を目指す農業者や関係者約158名が、今後の取組のヒント等を得ようと熱心に聞き入っていました。

## 目次

- 2 自然と歴史が都市と農村の融合を促進する  
「道の駅 那須与一の郷」
- 3 那珂川あゆ街道魅力アップフェアにさかなクン登場  
平成25年度食の街道連絡会及び研修会を開催
- 4 栃木6次産業化サポートセンターの  
取組について
- 6 とちぎ夢大地応援団カレッジ活動
- 7 とちぎっ子食育出前講座
- 8 平成25年度（第20回）美しいとちぎのむら  
写真コンテストの募集
- 平成25年度（第22回）ふるさととちぎ  
農業・農村児童画コンクールの募集



## 自然と歴史が都市と農村の融合を促進する

# 「道の駅 那須与一の郷」



那須与一像と扇をかたどっている建物

交流体験の研修室等を整備し、市農業公社が管理を担ってきました。

東日本大震災の影響から回復傾向にあるものの、これを加速するために、市は平成25年度から民間企業が持つノウハウを導入することで、最大の効果を得るため「八百屋蔵人共同事業体」での管理運営に一新し、震災前の総販売額4億円を早期に上回ることを目指しています。

施設の中核は何と言っても直売館で、開駅当初は生産者が約140名であったものが、現在、約160名にまでに増えて売上額も2億数千万円に達しています。地元農家の朝取り新鮮野菜等をメインに安全・安心で美味しい旬の味を消費者に提供し好評を得ています。特に、ここで販売されている卵は、朝行列が出来るほど人気のある商品で1時間程度で売り切れる日も出ています。

品切れ商品の防止と売れ行き状況を、出荷者に1時間毎に携帯電話等へ配信することや売れ残りは生産者が引き取ることなど、高品質な農産物等の提供で消費者との信頼関係を築いています。

レストラン館は、地元産のそば粉を使用した手打ち蕎麦や白美人ねぎ、大田原牛等の食材にこだわったメニューなどが、お客さんに好評を得ています。

また、交流体験ではソバ打ち体験、フラワーアレンジメント等を通して、生産者と消費者の交流を深めています。

当道の駅では今後とも、農業・農村の活性化のため施設運営の充実を図ると共に、消費者（お客様）の声を店作りに反映させ感動と生産者に喜びを提供できるよう日々努力をしています。

当道の駅では今後とも、農業・農村の活性化のため施設運営の充実を図ると共に、消費者（お客様）の声を店作りに反映させ感動と生産者に喜びを提供できるよう日々努力をしています。



朝取り野菜等が並ぶ農産物直売館



手打ち蕎麦が人気のレストラン館



## 那珂川あゆ街道魅力アップフェアにさかなクン登場

5月26日に、なかがわ水遊園を会場に、那珂川あゆ街道延伸記念イベントとして「那珂川あゆ街道魅力アップフェア」が開催され、1万2千人のお客さんと賑わいました。

那珂川あゆ街道は、これまでは、大田原市と那須町の範囲でしたが、今回、より一層の魅力アップを目指して、那珂川町、那須烏山市、茂木町まで街道を延長することになりました。

その記念イベントとして、お茶の間の人気者「さかなクン」によるトークショーをメインに、キャノン砲の発射が行われたほか、関係5市町、なかがわ水遊園、那珂川漁業協同組合連合会からのプレゼントの抽選会も行われるなど、盛大な式典となりました。

また、あゆ街道を含め県内10の食の街道協議会の模擬店が出店したほか、那珂川のクリーン作戦、稚鮎の放流なども行われて、会場全体を大いに盛り上げました。

那珂川あゆ街道に関係する5市町や関係団体が互いに連携しあった今回のイベントを通して、当街道の一層の発展を期待させるものでした。



キャノン砲発射



さかなクンのトークショー  
(さかなの絵が上手)



さかなクンのトークに子供達は大喜び



稚鮎の放流



各街道の模擬店も大にぎわい

## 平成25年度食の街道連絡会及び研修会を開催

とちぎ食の街道連絡会及び研修会を、7月9日、各街道の関係者など総勢41名の参加を得て、アグリプラザ「多目的研修室」において開催いたしました。

連絡会では、農村振興課から本年度の事業計画の説明、各街道協議会からの本年度の取組計画の報告があった後、活発な意見交換が行われました。

また、研修会では、JTB関東の福田進太郎氏から、「食と地域資源を活かした地域振興」と題して、県内各地でプロデュースしている地域づくり等の事例や、観光業者の立場に立って、客のニーズにあった事業の展開の重要性の説明など、参加者にとって最も聞きたい点についての説明があり、非常に有意義なものとなりました。



活発な意見交換が行われた連絡会



研修会講師の福田進太郎氏



福田氏の講演を真剣に聞く参加者



## 栃木 6次産業化サポートセンターの取組について

公益財団法人栃木県農業振興公社では、平成23年度から始まった国の6次産業化に係る推進事業について、平成25年度においても引き続き実施し、公社内に「栃木6次産業化サポートセンター」を設置しました。

特に今年度からは栃木県と連携を強化して、本県が有している農産物等の地域資源を最大限に活用し、創意と工夫を生かした6次産業化に取り組む農業者等を支援することで、農業の高付加価値化や農村の活性化を推進していきます。

このため、国の総合化事業計画の認定を希望する農業者等に対しては、専門的な知識を有する6次産業化プランナー等を派遣し、総合的に支援することにしています。

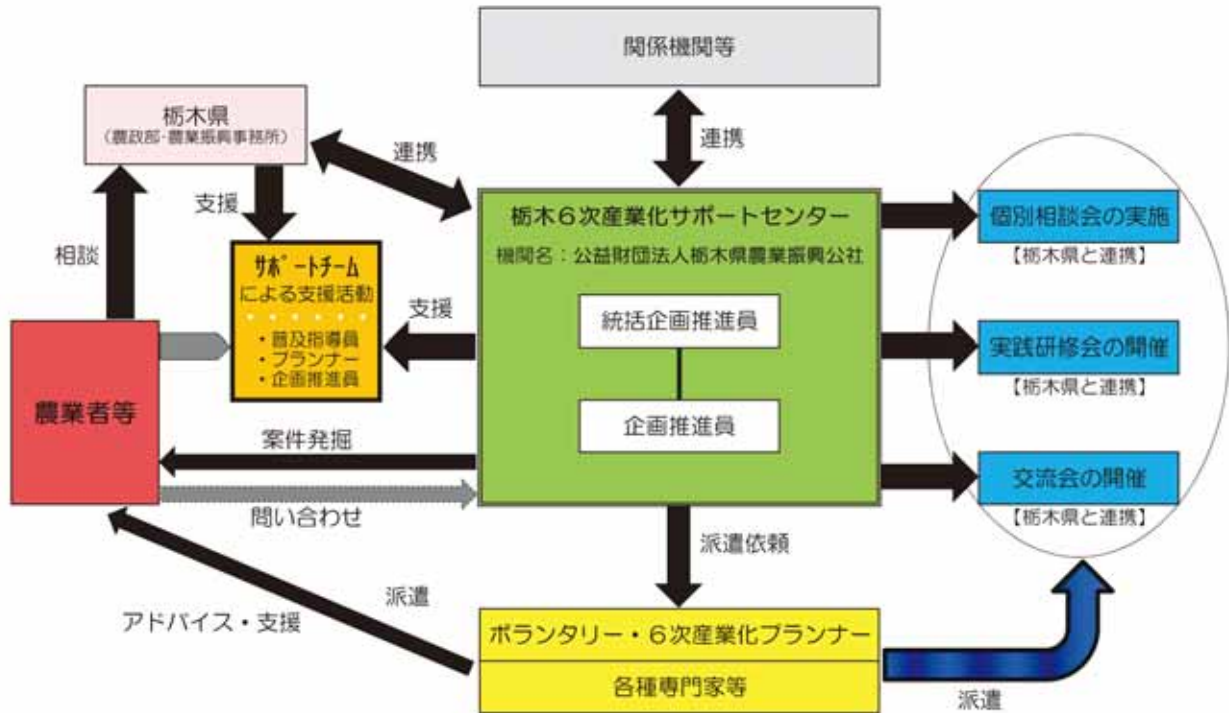
### I. 6次産業化総合化事業計画認定一覧（栃木県）

No.	事業者	市町村	主な新商品等	認定年月日
1	(有)那須高原今牧場	那 須 町	生乳を使用したチーズ	H23. 5 .31
2	(生法) (株)兼愛農場	宇 都 宮 市	米を使用した米粉パン、米粉ラスク	H23.10.31
3	(有)いちごの里湯本農場	小 山 市	いちごと小麦を使用したシロップ、飲料、カステラ	H24. 2 .29
4	加藤農園	矢 板 市	りんごを使用したジュース、ジャム、コンポート	H24. 2 .29
5	(有)星種豚場	那 珂 川 町	豚肉を使用したハム、ソーセージ、精肉	H24. 2 .29
6	(生法) 戸崎農園(株)	壬 生 町	紅あずまを使用したアイス	H24. 5 .31
7	林農産加工 (同)	茂 木 町	地場産農産物を使用した漬物、惣菜、スイーツ	H24. 5 .31
8	(株)遊食ファーム研究会	宇 都 宮 市	ブルーベリーと露地野菜を使用したスムージー等	H24. 5 .31
9	(生法) (株)前田牧場	大 田 原 市	牛肉を使用した熟成精肉、ローストビーフ等	H24. 5 .31
10	ふかさわ梨園	大 田 原 市	梨を使用した万能たれ	H24. 5 .31
11	鈴木 幸一	益 子 町	玄そばを使用した乾麺、手打ち生麺	H24.10.31
12	両毛酪農業協同組合	足 利 市	牛乳と人参を使用したニンジンミルク、ヨーグルト	H24.10.31
13	坂本 政明	栃 木 市	もち米を使用した切り餅、おこわ	H24.10.31
14	岩村 文郎	那 珂 川 町	大豆を使用した味噌、豆腐	H24.10.31
15	小白井孝治	大 田 原 市	トマトを使用したトマトピューレ	H24.10.31
16	金田 正	芳 賀 町	完熟にっこり梨を使用したサイダー、あめ	H25. 5 .31
17	横尾 武男	鹿 沼 市	黒毛和牛を使用した精肉	H25. 5 .31
18	発田 亮	大 田 原 市	ブルーベリーを使用したジャム、冷凍ブルーベリー等	H25. 5 .31
19	大野果樹農園	那須烏山市	和なしと人参を使用したタレ、ドレッシング	H25. 5 .31



## II. 6次産業化の支援体制図

栃木県内における6次産業化の支援体制図



## III. 平成25年度の事業概要

### (1) 個別相談会

新商品の開発や販路開拓等の6次産業化を目指す農業者等の課題や問題点に対し、解決に向けた助言を行う個別相談会を各県農業振興事務所7カ所で開催します。

### (2) 「とちぎ6次産業化実践塾」

本県の6次産業化を担う若き人材を育成するため、㈱ファーマーズ・フォレスト代表取締役社長の松本謙氏を塾長に迎え、商品設計、販売戦略、食品加工、知的財産等の専門分野の講義に加え、グループワークによる演習を含めた研修会を全6回開催します。

### (3) 交流会

県内農業者等の6次産業化総合化事業計画認定の取組状況についての事例を発表し、広く普及啓発を行います。

あわせて、農業者等と異業種の交流によるネットワークの構築を図るために交流会を開催します。

### 問い合わせ先

栃木6次産業化サポートセンター（公益財団法人栃木県農業振興公社 農政対策部内）

TEL：028-648-9511

FAX：028-648-9517



# とちぎ夢大地応援団カレッジ活動

平成25年度は茶の北限の産地・大田原市須賀川地区で開催



きれいに復元された茶畑をバックに記念撮影

地区住民で組織する「やみぞあずまっぺ協議会」メンバーらの指導のもと、茶摘みやお茶の手もみ加工体験を行いました。

第2回目は7月6日、8人の学生が協議会のメンバーらとともに、30度を超す猛暑のなか、雑草で覆われた10aの荒れた茶畑の草刈りや茶木の剪定などに汗を流し、約2時間かかりできれいな茶畑に復元しました。

1、2回目とも参加した学生たちは、各作業の達成感を味わうとともに、協議会員手づくりの地元の食材を使った昼食やおやつをいただき、大満足の様子でした。

カレッジ活動の最終となる第3回目は、11月に同所で秋季の作業を行う予定で、参加者からはどのような体験ができるのか期待されています。

「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」は、次世代を担う高校生や大学生に、農作業体験を交えた農地保全活動への参加を促し、農業・農村の必要性や重要性についての理解促進を図り、豊かな農村環境の維持・保全、地域資源の創造と継承を目的に実施しています。

3年目になる今年度は、調理師や栄養士を目指す宇都宮文星短大生、宇都宮大学工学部大学院生が、茶の産地・大田原市須賀川地区で茶摘みの体験や荒れた茶畑の復元作業に取り組んでいます。

第1回目は6月1日、学生18人が須賀川



茶摘みの手ほどきを受ける



お茶の手もみ加工を体験



荒れた茶畑の復元に汗を流す女子学生



作業後の楽しいランチタイム



# とちぎっ子食育出前講座



## ★とちぎっ子食育出前講座とは！

子どもたちへの食育をすすめるため、「とちぎ食育応援団」が普段の活動で培った食や農の知識・技術などを皆様のもとへ出向いて分かりやすく説明・解説します。

## ★食育応援団の活動事例

講座の内容によって各分野のエキスパートである食育応援団が派遣されます。日頃の研究と努力の結果を分かりやすく説明します。次の写真はその具体的な活動事例です。



栄養バランスを考えた  
献立シミュレーション



食育カルタ



保護者対象の食育講座



食育紙芝居



田植え体験



水田周りの生き物調査

## ★講座の内容

食育応援団の活動分野である次の分野についてサポートを行っています。

- ①生活改善・栄養管理分野
- ②食文化・郷土料理 地産地消分野（調理体験など）
- ③農林水産物の生産分野（体験等）
- ④食品製造・食品流通 食品加工分野
- ⑤食品衛生分野
- ⑥その他（田んぼの生物やその保全活動など）

## ★対象

県内の保育所・幼稚園等、ただし、地域活動などで行う場合は小学生などの就学児でも対象になります。

## ★お申し込み

出前講座開催予定日の**1カ月前**までに会社にご連絡・ご相談の上お申し込み願います。

※都合により、ご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## ★食育応援団募集

常時食育応援団募集しています。

申し込み用紙を郵送・FAX・Eメール・直接来館等でお申込みください。

(公財) 栃木県農業振興公社 食と農の推進担当  
 〒320-0047  
 宇都宮市一の沢2丁目2番13号とちぎアグリプラザ  
 TEL : 028-649-0177 FAX : 028-649-0277  
 URL : <http://www.agriplaza.jp/>



## 平成25年度（第20回）美しいとちぎのむら写真コンテストの募集

農村地域における農業生産活動の様子や美しい四季折々の自然などを、将来を担う中学生・高校生に撮影していただき、広く農業・農村への理解と関心を深める契機とする。

- 1 応募資格 県内の中学校・高校に在学する生徒
- 2 応募テーマ 躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう  
部門1 農業に生き生きと携わる人々の姿  
部門2 農地、水、農村環境を守る活動
- 3 応募サイズ 四つ切又はA4版カラーもしくは白黒プリント  
(デジタル合成処理は不可)
- 4 応募規定 作品は県内でフィルムカメラ、デジタルカメラで撮影した未発表写真とし、一人5点まで応募可能
- 5 応募方法 応募写真の裏に応募票を貼付けし、11月29日までに農業振興公社に送付してください。
- 6 表彰 最優秀賞 各部門1点(栃木県知事賞)  
優秀賞 各部門2点(栃木県農政部長賞)  
入選 各部門10点以内(主催者賞)
- 7 入賞作品の発表 入賞者は公社ホームページで紹介します。  
平成26年2月23日から3月1日に栃木県庁15階展望ロビーで展示します。

参考：24年度最優秀作品



栗野中学校3年 益子大輝さん



長沼中学校1年 石崎彩香さん



## 平成25年度（第22回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集

活力ある農業の姿や農村の情景に親しみ、これらを描くことによって農業・農村のすばらしさを知るとともに、優秀作品を展示して広く県民の方々に農業・農村の理解と関心を深めていただくために開催します。

1. 応募資格 県内の小学校で学ぶ児童
2. 募集テーマ 私が描く農業・農村  
作業の風景、農家の人々の暮らし、市場や農産物直売所の情景、体験農業の様子など
3. 作品の規格 B3の画用紙(1～4年生はB4でも可)
4. 応募方法 小学校でとりまとめ、9月5日までに市町の農政担当課に送付して下さい。
5. 表彰

低学年(1～2年生)、中学年(3～4年生)、高学年(5～6年生)の区分毎に、最優秀賞(栃木県知事賞)各1点、優秀賞(栃木県教育長賞・栃木県農政部長賞)各2点、優良賞(ふるさととちぎ21活性化塾長賞)各10点

6. 入賞作品の展示 10月19～20日に開催される「とちぎ「食と農」ふれあいフェア2013会場(栃木県庁15Fロビー)」で展示します。

参考 24年度最優秀賞作品



大田原市立黒羽小2年 松浦朱里さん  
「農村の風景(収穫)」



鹿沼市立石川小3年 石川海凧さん  
「かぼちゃとなすのしゅうかく」



那須塩原市立埼玉小6年 保科皆好さん  
「野菜畑」

とちぎ発 元気農業 ふるさととちぎ21活性化塾だより56号

発行日 平成25年8月8日  
編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾  
所在地 〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-13  
(公財)栃木県農業振興公社内

TEL 028(648)9511(代) FAX 028(648)9517  
URL : <http://www.tochigi-agri.or.jp>  
Eメール : [info@tochigi-agri.or.jp](mailto:info@tochigi-agri.or.jp)

